

＊ ニュースレター ＊

2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より



[年頭にあたり](#)

日本歯科審美学会 副会長 佐藤 孝



誼訪先生を偲んで

[我らが良き友 素晴らしき生涯の仲間
今は亡き 誼訪富彦先生の御霊に捧ぐ](#)

日本歯科審美学会 名誉会員 寺川國秀



[第17回日本歯科審美学会学術大会のご案内](#)

第17回日本歯科審美学会大会長 川和忠治

セミナーのご案内

[すべての人に白い歯を！これから始める審美歯科](#)



学術大会報告

[第16回日本歯科審美学術大会を終えて](#)

大会準備委員長 宮内修平

[第29回アメリカ歯科審美学会 \(ASDA\) 国際大会に参加して](#)

猪苗代歯科 猪苗代雅俊

[AESTHETIC IN BARI 2005に参加して](#)

昭和大学齲歯・歯内治療学教室 星野睦代



優秀発表賞受賞者のご紹介

[デンツプライ賞を受賞して](#)

神奈川県西村歯科医院院長
東京医科歯科大学歯学部附属病院客員臨床教授 西村耕三



優秀発表賞受賞者のご紹介

[学会優秀発表賞受賞に際して \(臨床報告部門\)](#)

東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究摂食機能保存学分野 吉田恵一

[Congratulations!](#)

[委員会報告](#)

[鶴見大学歯学部付属病院に『白くて美しい歯の外来』開設](#)

鶴見大学歯学部第一歯科保存教室 大森かをる（主任）
飯田麻理子・山田有美・鈴木千歳・西出明史・桃井保子

| [Back](#) |



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

年頭にあたり



日本歯科審美学会 副会長 佐藤 孝

会員諸氏におかれましては新しい年2006年を迎え、様々な想いを抱きスタートされていることと存じます。

歯科界においても次々と難問が析出しております。その中でも昨年の郵政民営化に続き、今年には医療改革が推し進められることでしょうか。増え続ける医療費に対処するために医療費の総量規制が検討され、現に医療費は大幅に制御され、全体で3.16%の削減という厳しい状況になってきております。今後この環境は大きく変わることはないでしょう。

一方、団塊の世代がリタイアを始める2007年を1年後に控え、日本は益々高齢社会になり、社会構造が変わろうとしています。このような社会変化の中で、私たちは歯科医療をどのように行っていけばよいのか戸惑い、その打開策を見出せずにいる歯科医療従事者がなんと多くいることでしょうか。歯科医療は長い間疾病の治療という治療医療を中心に行われ、そして、その後の機能回復のための修復治療へ力を注いできました。

そして近年は、病気の再発を防ぎ予防をするための予防医療が重要視されていますが、反面人々の医療に対するニーズもそれ以上に多様化し変化しております。現在の社会は豊かになり、多くの価値観が存在しています。その中で歯科医療に対しても同じように人々の望むものは多種多様です。人々は単に疾病の不自由からのがれることのみならず、いかに自分の生活の質を向上するかに価値を見出すようになってきています。それは単に病気というマイナスの状態を改善しゼロにするだけの医療では満足せず、更にプラスの状態を創り出し、自分の人生をより豊かにしようとする欲求です。

そのために、これからの歯科医療はプラスを創り出すための医療が求められる時代であり、その中で審美歯科はその欲求に応えるものでもあります。そのためには、審美歯科を単に歯の色や形の問題としてとらえるのではなく、健康と美と機能によって裏打ちされたものとして考えなくてはなりません。世の中の人々は「体に害がなく、自然な感じで、きれいで、若々しさを維持でき、心地よく機能してくれる」ことを無意識に欲しているのです。

私たち歯科医療者は単に治療するだけではなく、また、機能回復を主とするのではなく、予防を含めよりプラスを創り出す医療に挑戦し、人々のQOLに貢献して始めて大きな価値が出てくるのではないのでしょうか。世の中の大きなトレンドに歯科界は乗り遅れてはなりません。そして、いつも改革派として行動することが必要でしょう。



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

諏訪先生を偲んで



我らが良き友 素晴らしき生涯の仲間 今は亡き 諏訪富彦先生の御霊に捧ぐ
日本歯科審美学会 名誉会員 寺川國秀

去る10月8・9日、第16回日本歯科審美学会学術大会は、大阪国際会議場に於いて、盛大に開催された。1988年4月16日、笹川記念館で初めての日本歯科審美研究会が発足して以来、初めての臨床家の視点から観た、歯科、産、学、臨、三位一体の新機軸による充実した内容のプログラムによる企画であった。

諏訪大会長を中心に、宮内準備委員長をはじめ大阪在住の臨床家が実行委員となり、一年間の討議と準備の末「傾聴、共感、共生と審美歯科」を中心に特別講演、基調講演、教育講演、ポスタープレゼンテーションを実施し、市民フォーラムでは諏訪先生の肝いりで「日本の伝統芸能に見られる美意識について」など格調高い、多彩なプログラムと多数の業者展示に全国から集まった600余名の参加者は心からの感謝と盛会を歓んだ。

初日の夜は、諏訪先生の満面笑みをたたえた、お礼の挨拶があり、韓国、スイスなど海外からの講師を交え、リオのカーニバルの踊り子を招いた楽しくユニークな親睦の輪が参加者全員の心に秋の香りと共に会場一杯に広がっていった。

大会長主催で二次会がホテル内で催され、皆で労をねぎらい学会二日目の成功を祈り喜びの杯を交わした。

それが諏訪先生との永久の別れとなろうとは神ならぬ身の誰が想像し得ただろうか。

「人は生涯の中で会うべき人には、必ず逢う しかも一瞬早かるもせず退かりもせず…」

昭和63年2月に神戸の総義歯研究会でお会いしたのが、先生との出会いでした。

同年の4月16日の審美研究会役立に参加していただき、以来松尾先生、桑田先生等と共にASDAの学会に同行して戴き、メンバーとして、サンフランシスコやシカゴ、ニューヨークやラスベガス等で20世紀の臨床歯科を語り、21世紀の審美歯科の夢を夜の更けるのも忘れて論じあった日々、先生は常に優しい奥さんを同伴され、歯科医として成長してゆくお子さん達の話に目を細めて居られた姿が今も尚、鮮明に心に残っています。

先生は昭和38年に大阪歯科大学をご卒業後、保存学教室副手を経て、早くからDr. ピーチの水平診療を学ばれ、「ア歯科」第一号になりました。ハワイのDr. Nishi、Dr. Masunagaに矯正、補綴を、スウェーデンではインプラントを学ばれ、特に口腔外科には造詣が深く、またAPLO (Academy of Performance Logic) の会長を長く務められ、臨床を通して後進の指導にあたられ同時に患者のために尽くされました。

幅広い学会活動の中で、日本歯科DNA研究会理事、日本アンチエイジング歯科学会監事、日本歯科審美学会の認定医また理事として、多忙な臨床の日々にも関わらず、今回本学会の大会長の重任を引き受けて戴いたのでした。

先生の柩の中に、大会長への感謝状と授与式の写真が沢山の花と共に納められていました。先

生、素晴らしい生涯でしたネ。ご苦労様でした。安らかに眠りください。「人は歴史を創り、歴史はまた人を創る。」



| [Back](#) |



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

第17回日本歯科審美学会学術大会のご案内



第17回日本歯科審美学会大会長 川和忠治

新年明けましておめでとうございます。審美学会会員の先生方におかれましてはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さてこのたび第17回日本歯科審美学会の主管の大役をおおせつかり誠に光栄かつ身の引きしめる重責を感じております。今回は昭和大学歯学部あげての担当ということで歯学部のみならず医学部、薬学部そして新学部である保健衛生学部にも協力を得て大会を盛り上げて生きたい所存でございます。

今回のメインテーマでもある「口もとの美を医学と薬学との共感から」というタイトルにふさわしい講演をご用意させていただいております。特にわれわれ口腔内の機能的美しさを重要視する一方、患者サイドからの更なる要求である口腔周囲の審美障害の改善も増加しつつあるのが現状です。そこで今回は歯科審美学を中心に形成外科学、皮膚科学、化粧品学の著名な先生方をお招きして、特に口腔組織に近いところの審美障害に対する歯科医師としてのアプローチや解決策の一部になることを期待しております。また顔面のプロポーションや表情の作り方、メイクアップなども織りいれてご紹介させていただく所存でございます。さらに日本歯科審美学会と区民の皆様が気軽に触れ合えるような企画も現在検討中で、近隣のソニープラザの即売会や資生堂の協賛などにより、老若男女の方々にも楽しんでいただけると確信しております。

品川区大井町はご存知のとおり大変人情味あふれる下町ですが、東京湾開発の影響で高層ビルも建ち並びモダンな町へと変わりつつあります。また、近くには大きな水族館もオープンし大人も童心に帰り見入ってしまうほどの迫力がございます。お時間が許せば是非お立ち寄りください。また近くには歴史的な大森貝塚もあり静寂の中のひと時をすごせるかと思えます。開催季節も10月と学会シーズン真っ只中とは存じておりますが是非この機会に万障お繰り合わせの上、大井町駅前にあります「きゅりあん」にお越しいただけることを心よりお願い申し上げます。大会長のご案内とさせていただきます。

-
- 日時／平成18年10月14日（土）、15日（日）
 - 場所／大井町 きゅりあん 品川区総合区民会館
-



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

セミナーのご案内

すべての人に白い歯を！これから始める審美歯科

平成17年度第3回日本歯科審美学会セミナーのご案内を致します。今年度は3回のセミナーが企画され、年間を通したテーマが、「すべての人に白い歯を！」というものでした。第1回は7月に東京医科歯科大学で「これから始めるホワイトニング」というテーマで、第2回は12月に日本歯科大学で「これから始めるメタルフリーレストレーション」というテーマでセミナーが開催されました。第3回については今年度のまとめということで「これから始める審美歯科」というテーマを設定致しました。

内容は「ホワイトニングを併用した審美修復」と「接着を生かした審美修復」でお二人の先生にご講演をお願い致しました。開催場所については、田上理事長、セミナー委員長から是非東京・大阪以外で開催したいとの意向が示されましたので、第18回日本歯科審美学会学術大会を九州大学の主管で開催されることが決まっていることもあり、福岡で開催することに決まりました。

福岡・九州地区の先生方が中心になるかと思いますが、多くの先生方のご参加をお願い申し上げます。

(セミナー委員会委員 寺田善博)

●日時／2006年3月19日(日) 午前10:00～午後4:00

●場所／九州大学歯学部 講義室

福岡市東区馬出3-1-1

「JR博多駅」→(地下鉄空港線)→「中洲川端駅」、貝塚方面へ乗換→(地下鉄箱崎線)→「馬出九大病院前駅」

●講演内容／

『ホワイトニングを併用した審美修復—ホワイトニングを効率的に日常臨床に取り入れるために—(仮題)』須崎 明(愛知県開業)

『接着を生かした審美修復—日常臨床に生かす基礎とテクニックの実際(仮題)』宮崎真至(日本大学歯学部)

●対象／歯科医師・歯科衛生士・歯科技工士・学生・スタッフ

●参加費／事前登録：(会員)1,000円(非会員)3,000円(学生)無料

※学生の参加は事前登録のみとさせていただきます。なお、歯学部・歯科衛生士学校・歯科技工士学校の学生が対象となり、会員からの紹介が必要です。

当日登録：(会員)2,000円(非会員)4,000円

●申込及び問い合わせ先／

申込用紙に必要事項をご記入いただき、セミナー事務局までFAXにてお送りください。事前登録の締め切りは、3月10日(金)16:00です。

日本歯科審美学会セミナー事務局 Eメール：gakkai2@kokuhoken.or.jp

FAX：03-3947-8873 TEL：03-3947-8761

| [Back](#) |



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

学術大会報告



大阪国際会議場
(グランキューブ大阪)

第16回日本歯科審美学術大会を終えて 大会準備委員長 宮内修平

2005年10月8日、9日の2日間、大阪国際会議場（グランキューブ大阪）で第16回日本歯科審美学術大会が開催されました。本大会では、諏訪富彦大会長をはじめ大半の準備委員が開業医であるという過去の大会に例を見ない人的構成で企画、運営が行われました。

メインテーマは「傾聴、共感、共生と歯科審美」で、内容的にも今までの大会とは異なった新機軸による臨床テーマの豊富なプログラムが組まれました。メイン会場では学会長講演、基調講演、特別講演の他に海外から2名の招待演者による講演、5題の教育講演、2題のセミナーが、他の2会場においては15題のクリニカルセミナー、5題のランチオンセミナー、1題の教育講演が開催され、審美を主軸にコンポジットレジン、ポーセレン、インプラント、再生医療、CAD/CAM、義歯、予防衛生、マイクロスコープなどの多くの興味深いテーマで、著名な歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士など計39名の講師による講演が行われました。また、会員のポスター発表も過去最多の40演題が行われ、熱心な討論が交わされました。企業の協賛も51社を数え、活気にあふれた展示会場となりました。今大会では、参加事前登録が420名、当日登録が142名、計562名という大盛況ぶりでした。さらに、併催された市民フォーラムでは、「日本の伝統芸能に見る日本人の美意識」と題して、大阪歴史博物館館長の脇田修先生に、また「きれいな歯と元気が出る話」と題して朝日放送アナウンサーの道上洋三氏と田上学会長に楽しいお話をしていただき、多くの一般市民も熱心に聴講されました。

初日の講演終了後、会場と隣接のリーガロイヤルホテル、「光琳の間」にて盛大に懇親会が行われました。アトラクションとして、ブラジル人ダンサーによるサンバのダンスが披露され、大会長も多くの方々とともにダンスに興じ、大変楽しいひとときを過ごしました。

大盛況のうちに初日の幕を閉じたのですが、大変残念なことに大会長の諏訪先生が9日未明に急逝されるという異例の事態が生じました。今大会を早くから企画され、大成功に導かれた先生の偉大なるご功績に対し衷心より敬意を払うとともにご冥福を心よりお祈り申し上げます。



受付



ポスター発表



ランチオンセミナー



商社展示



大会委員長と準備委員





2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

第29回アメリカ歯科審美学会 (ASDA) 国際大会に参加して

猪苗代歯科 猪苗代雅俊

第29回アメリカ歯科審美学会 (ASDA) 国際大会が10月20～22日アメリカテキサス州ダラスにおいて開催され審美歯科の生みの親であるDr.Irwin Smigerl会長のもとへ世界から約300名が集いました。当学会役員からは寺川國秀先生、坂本洋介先生、渡部圭吾先生、椿智之先生が参加されました。

今回の大会はハンズオンワークショップが大半を占める中、Dr.Bill Dorfmannのプレゼンテーションは、ホワイトニング・ボンディング・ラミネートベニア等、組み合わせスマイルデザインを構築し口腔内の機能と審美性の再建しその人のライフスタイルをも再建する様子は印象深くまたアメリカらしい表現の仕方など考えさせられるものが多くあった。

今回、日本からの参加者が少ない中、韓国からの参加者が増え有資格メンバーの認定を受ける人数も多くおどろかされました。

我々も日本からの参加者を増やし、アメリカの審美歯科に触れる機会を多く持つように期待したいところです。

来年は10月5～7日 ジョージアにおいてASDA30周年記念大会が開かれます。

日本歯科審美学会会員の先生のご参加をお待ちしております。



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

AESTHETIC IN BARI 2005に参加して

昭和大学齲蝕・歯内治療学教室 星野睦代

去る2005年5月20日(金)～22(日)、インドネシア、バリ島、クタのDISCOVERY KARTIKA PLAZA HOTEL、BALIにて学術大会AESTHETIC IN BALI 2005が開催されました。主催者によると、参加者数は420名と予想を大きく上回り、大盛会であったとのこと。20日の朝8時30分からの開会の挨拶に続き、4人の踊り手達によるバリの民族舞踊が披露され、講演が始まったのは予定の30分遅れでしたが、会場は満席で立ち見が出る程となり、インドネシアの参加者の審美歯科に対する熱心さが感じられました。

昭和大学齲蝕・歯内治療学教室の久光久教授の講演は、その日二人目の9時30分からで“New technique of bleaching pulpless teeth”と題して30分間行われました。教授独特の変色無髄歯へのホームホワイトニング材の応用法について、会場から関心が集まっていました。

久光教授の次の演者は、韓国のDr.Koの奥様Dr.So-Ran Kwonでしたが、“A New Era in Tooth Whitening”と題して1時間の講演が行われました。たくさんの素晴らしい症例写真とともに、彼女独特のサランラップを用いたオフィスブリーチ法など、工夫をこらした、即臨床に応用出来る方法の紹介等がありました。

プログラムブックによりますと、AAAD Business Meetingが21日9時35分から開催されることになっていましたが、その時刻にはプログラムに無いマレーシアのProf.Luiの講演が行われていて、AAADのMeetingは10時30分からに変更になっていました。(これがインドネシア方式なのかもしれません。)しかし、会議に出席された久光教授によると、実際にMeetingが始まったのは11時10分からで、庶務・会計・編集報告に続き、Phua会長より2006年の7月にシンガポールで第9回のAAAD Meetingが開催されるとの報告などがあり、Meetingは12時30分に終了したとのこと。

学会の合間には、バリの民族楽器である“ガムラン”を習いに行ったり、リゾートミーティングならではの雰囲気を楽しみ、明るい南国の風の中で深呼吸をして、リフレッシュしてきました。地震、津波の被災やテロに屈することなく、審美歯科の発展に尽力するインドネシア歯科界の姿勢をかいま見ることができ、私もますます明日の日本の審美歯科について真摯に考え、努力していかなければならないと帰国の機上で感じた次第です。





2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



デンツプライ賞を受賞して

神奈川県西村歯科医院院長

東京医科歯科大学歯学部附属病院客員臨床教授 西村耕三

この度は御学会よりデンツプライ賞という光栄な賞をいただき、誠にありがとうございます。

私たちの研究は歯の漂白が国民のQOLの向上に貢献するという事を明らかにしました。確かに天然歯はA3程度が平均的な明度ですが、テレビCMや映画に出てくるスターの歯はとても白く輝いて見えます。国民の口元への意識もそれに伴い、美しく白い歯への憧れが以前より増してきたように思います。私たち歯科医はその願いに応えるべき立場にあります。ホームホワイトニングは歯を削除したりせず、簡便な方法で、A3の歯をA1かB1程度に明度を上げることができます。まず、身近のスタッフやご自分の歯をホームホワイトニングしてみてください。そして患者さんから「どのくらい白くなるのですか？」と聞かれたら、マスクを外して「このくらい白くなります。」と自信を持って見せてあげてください。いろいろ質問をされるとは思いますが、ご自分で経験されていると、患者さんに具体的に分かり易く答えられると思います。きっと、多くの患者さんがホームホワイトニングを希望されると思います。そして、歯が白くなった患者さんは口元に自信を持てるようになり、素適な笑顔を周囲の人々に振り撒き、仕事にも人生にも好ましい影響を与えるはずです。ホームホワイトニングした患者さんの77%は口元に自信があると答えられました。私たち歯科医はそのような素晴らしい笑顔を作り出すことができます。

最後に、西村歯科医院のホームホワイトニング治療にとってかけがえの無いスタッフであるカウンセラーの飯島葉子さん、技工士の稲垣晃良さんを始め、スタッフの皆さん、東京医科歯科大学う蝕制御学分野の田上教授、大槻助教授、宇井紘子先生、菅野多真先生にも大変感謝します。それに、素晴らしい笑顔で調査に協力してくれた患者さん達に深く感謝いたします。



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

優秀発表賞受賞者のご紹介



学会優秀発表賞受賞に際して（臨床報告部門）

東京医科歯科大学大学院

医歯学総合研究摂食機能保存学分野 吉田恵一

この度は第14回日本歯科審美学会学術大会において発表させていただいた「新しいオールセラミックブリッジの臨床評価」が学会優秀発表賞を受賞いたしましたこと、大変光栄に存じます。日頃からご指導いただいている学会長の田上順次先生、前学術委員長の木村幸平先生をはじめとする学会の諸先生方に深く感謝する次第です。

ファインセラミックスのひとつであるジルコニアはその卓越した機械的性質のため工業界では既に様々な分野で用いられてきていますが、成型の難しさのため歯科への応用は近年まで行われていませんでした。しかし近年のCAD/CAM技術の急速な進歩で応用可能となりました。補綴修復といえば鋳造を用いた間接法で育ってきた自分にとっては近年のコンピュータ技術の発展を背景とした歯科技術の進歩のスピードには驚くばかりです。

このジルコニアをフレームに応用したこの新しいオールセラミックシステムは本邦でも本年4月に許認可があり、臨床に供されることとなりました。当教室では平成14年10月にこのシステムを導入し、さまざまな基礎的、臨床的研究を行ってきております。

基礎的研究としては、金型を用いた単冠、3ユニットブリッジの適合精度、陶材の焼き付け強度、咬合力負荷時のジルコニアフレームのひずみの検討などを行っており、臨床に供されるに十分な性能を有していることが明らかになっています。また、実際に患者さんにブリッジを装着しその経過を追う臨床的検討については学会でもご報告させていただいたように短期間ではありますが良好な経過が得られております。

このように臼歯部におけるブリッジ修復において破折の心配がなくオールセラミックシステムを用いることが出来るようになったという点では画期的なシステムと言えらると思いますが、問題点がないわけではありません。オールセラミックシステムの大きな長所であるはずの審美性についてはジルコニアではまだ解決すべき問題点もみられますし、その長期予後についてはまだ情報も少なくこれからの検討課題と思います。我々はこれからも、基礎的、臨床的検討を引き続き行っていく所存であります。学会の皆様には今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

Congratulations!

日本歯科審美学会認定医制度は平成8年10月11日に発足し、現在67名の先生方が認定医として認定されています。所定の学術大会への出席・論文ならびに学会発表により審査を受ける資格を得て、症例提示と口頭試問という認定医審査に合格するためには、常日頃の弛まぬ努力を必要とするものでしょう。(認定医制度についての詳細はホームページwww.jdshinbi.netをご覧ください。) 審美歯科という名前は保存・補綴といった従来の分類に比べて、患者さんの知名度も高く、信頼のおける先生を探しておられる方々も多く、転居に伴って紹介を頼まれることも少なくありません。

このページは、新規に認定医ならびに一昨年世界に先駆けて発足した認定士の資格をとられた先生方に合格のお祝いを申し上げるとともに、会員の皆様にご紹介するためのコーナーです。

平成17年度春季(第17期)の認定医試験合格者は下記の5名の先生方です。

高田 恒彦氏 (東京都文京区)

小幡 登氏 (京都市南区)

橋場 千織氏 (東京都世田谷区)

田中 譲治氏 (千葉県柏市)

楠本 哲次氏 (大阪府大阪市)

現在の認定士資格者は下記のとおりです。

日本歯科審美学会認定歯科技工士

- T 1. 桑田 正博氏 歯冠修復 (東京都板橋区)
- T 2. 岡野 京二氏 歯冠修復 (東京都板橋区)
- T 3. 青山 光邦氏 歯冠修復 (山形県山形市)
- T 4. 吉田 周平氏 歯綸修復 (東京都世田谷区)
- T 5. 和田 弘毅氏 有床義歯 (大阪府大阪市)
- T 6. 木村 好秀氏 歯冠修復 (大阪府大阪市)
- T 7. 樋口 鎮央氏 インプラント (大阪府大阪市)
- T 8. 齋藤 哲也氏 歯冠修復 (東京都渋谷区)
- T 9. 中込 敏夫氏 有床義歯 (東京都新宿区)
- T10. 菅 義嗣氏 歯冠修復 (東京都世田谷区)
- T11. 齊木好太郎氏 インプラント (東京都港区)

日本歯科衛生士認定歯科衛生士

- H 1. 佐藤二三江氏 (東京都新宿区)
- H 2. 木村美佐子氏 (東京都新宿区)
- H 3. 小粥 照子氏 (愛知県名古屋市)
- H 4. 森 和美氏 (愛知県名古屋市)
- H 5. 田島菜穂子氏 (東京都港区)

H 6 . 武井 典子氏 (東京都墨田区)

新規に認定医・認定士の資格取得された皆様、おめでとうございます。今後のますますのご活躍をお祈りいたします。

| [Back](#) |



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

委員会報告

総務報告

まず、皆様に悲しいご報告をしなければなりません。本学会理事であり、第16回学術大会大会長をお務めになりました諏訪富彦先生が大会期間中の平成17年10月9日に急逝されました。学術大会自体は宮内修平実行委員長の下で粛々と行なわれ、参加者500名を越える盛会であったことが先生への何よりの供養となりました。諏訪先生のご生前の学会へのご貢献に感謝し、心よりお悔やみ申し上げます。

さて、平成17年7月26日現在の会員数は1,906名で、過去3年間で約400名増加しています。会費納入率は80%以上となっており、会員の学会への関心の高さや期待が数値として現れています。この勢いでいきますと2,000名到達は間近と思われます。コ・デンタル会員が歯科技工士92名、歯科衛生士49名と学際学会を特徴づけるものとなっています。また、歯科業界以外からの法人会員の申し込みがあり、資格審査中です。こうしたことも審美歯科分野に対する社会的関心が高い証といえます。しかし、関心が高まるほど学会としての社会的責任は重くなり、倫理的責務は避けられないものとなっています。学会雑誌は19巻1号よりA4版化に新装されます。平成17年度セミナーの企画はこれから審美歯科治療に取り組もうとする学生や若い先生を対象にしており、すでに2回分を終了しました。アジア歯科審美学会(AAAD)が連盟制に移行したことで、本学会会員はAAAD会員でもあります。平成18年7月にシンガポールで開催されるAAAD大会には会員として是非ご参加ください。平成17年度総会で学会設立当初より学会の発展に貢献された故人を含む8名の会員が名誉会員に推挙され、承認されました。また、田上順次会長の平成18年4月からの2期目の再任が決まりました。在任中に接着歯学会との交流をはかるために学術大会の共催に取り組む意向を表明され、平成19年度の実現を目指して日程調整に入っております。平成18年度第17回学術大会は平成18年10月14日～15日に昭和大学の川和忠治理事のご尽力により東京都内で開催されますので奮ってご参加下さい。

(総務担当常任理事 福島正義)

編集委員会

編集委員会では、プライオリティなどの観点から講演論文を廃して、事後抄録を掲載する方針を立て、同時に、論文区分を総説、原著、臨床(症例報告、各種術式、臨床のヒントなど)、誌上セミナー、特集およびその他として、「歯科審美」を読者にとって魅力あるものとするべく検討を重ね、18巻2号を新編集方法により発行する運びとなりました。

18巻1号までの旧編集方法では、ご投稿いただいた講演論文の投稿者に、査読の過程で原著論文や臨床論文として再投稿を依頼してきましたが、講演論文を廃した18巻2号から、このような方法で論文掲載することが出来なくなりました。そこで今回は、理事の先生方に、関係者の発表を論文として投稿していただくよう依頼いたしました。本号では、残念ながら、原著論文を掲載

できませんでした。新論文区分による編集のもと、総説1編、症例報告2編、各種術式1編、臨床のヒント1編、調査研究1編、事後抄録40編を収載することができました。ご協力いただいた関係各位に感謝申し上げます。

19巻1号では、B5版からA4変型版に移行するのを機会に、表紙も変更して、文字通り誌面刷新の予定です。前述のように講演論文から原著論文や臨床論文を採用することが出来なくなったことへの対応策として、学術大会直後に発表者に改めて論文の投稿を依頼させていただくことにいたしましたので、積極的にご投稿下さるようお願いいたします。認定医・認定士を取得される会員には、ケースプレゼンテーションに用いた症例の報告で誌面を飾って下さるようお願いいたします。編集委員会でも、総説、各種術式、臨床のヒント、誌上セミナー、特集などで魅力ある誌面づくりを企画いたしますので、是非、ご協力をお願いいたします。

今後、歯科医学会分科会加入を果たすためには、それなりの質と量の論文が必要ですので、会員諸兄姉には、積極的に論文を投稿して誌面を飾って下さるようお願いいたします。

(委員長 長岡英一)

国際渉外委員会

フィレンツェ、京都、ワシントン、ベニス大会と続いてきた国際歯科審美学会（IFED）の大会がいよいよ2007年5月に韓国・ソウルで開催されることになり、準備が着々と進んできています。開催日程は5月4日から6日までと予定されていて、日本のゴールデンウィーク中となっています。日本歯科審美学会の会員からは、休日利用で出席し易い、他の予定が入って出席し難いと両極端な意見が出るように思います。それよりも航空券やホテルの確保に苦労されるのではないかと心配している次第です。ここ暫くの韓流ブームがあり、相当な混雑が予想されます。次回の日本歯科審美学会学術大会には、現在のIFED会長（Co-President）であり、ソウル大会長のKo先生が来日して講演して大会参加を呼びかけます。本学会、本委員会としても会員の参加のお手伝いを何らかの形でさせて頂きたいと考えていますが、まずは会員諸氏の予定表に「IFEDソウル大会！」と記入して頂きたいと存じます。多数の方々の「参加予定」をお願いします。

アジア歯科審美学会が予定通り、個人会員制から連盟制に移行しましたので日本歯科審美学会会員諸氏は、すなわちIFED会員でありアジア歯科審美学会（AAAD）の会員でもあることになりました。そしてその大会が2006年7月にシンガポールで開催されますが、詳細が未だ決定していないためご案内できないことをお詫びします。いずれにしても日本歯科審美学会会員が国際そしてアジア歯科審美学会の会員でもあるということは、大変に意義あることで、きっと会員の国際的な面での資質向上、国際交流にお役に立つことと信じています。ちなみに前述した通り、次回の日本歯科審美学会にはKo先生が「国際交流のセッション」（セッションの名称などは未決定です）として講演され、今後はこのセッションが継続されて会員が国際レベルの審美臨床に触れる機会が増えることを願っています。

(委員長 千田 彰)

法人化検討委員会

検討した項目：

- (1) 法人化した場合の利点（専門医の標榜、社会貢献等）、欠点（会計が煩雑、運営費用が必要等）
- (2) 専門医について
- (3) 歯科医学会の分科会に入会について
- (4) 他学会の法人化状況について

社団法人／日本口腔外科学会、日本補綴歯科学会（平井敏委員）

特定非営利活動法人／日本歯周病学会、日本歯科保存学会（平井義委員）、日本歯科放射線学会

有限責任中間法人／日本歯科小児歯科学会、日本歯科麻酔学会

以上、当委員会において日本歯科審美学会の法人化を行なうかどうかについて検討して参りましたが、現時点では時期尚早との結論に達しました。

その後、田上会長とも相談し、さらに2回の常任理事会においても検討致しましたが、当面法人化については様子を見ていくことになりました。

（委員長 新谷英章）

会則検討委員会

名誉会員の推薦につきまして、運用をしやすくし、理事会の裁量に任せやすくするために、内規が変更になりましたのでお知らせいたします。該当者がおられましたら会則検討委員会委員宛ご推薦ください。

（名誉会員に関する内規）会則第4条第3号の名誉会員については、原則として次の号に該当する者の中から理事会が推薦し、評議員会の議を経て総会の承認を得るものとする。

(1) 被推薦人は60歳以上で、正会員歴が15年以上あり、本会の正副会長、監事、大会長の任にあった者、および理事、評議員の職務を担った者の中で、特に本会に著しい功績のあった者。

(2) 海外の被推薦人にあつては、特に本会の発展に功績のあった者。

(3) この内規の改正は、理事会の議を経て、その承認を得なければならない。

（付則）この内規は平成17年10月8日から施行する。

（委員長 加藤喜郎）

認定士審議会

平成17年7月27日（水）11：00～16：00 東京グリーンホテル水道橋／琥珀の間にて、第3期認定士資格審査を実施致しました。当日は、書類審査に合格した歯科技工士4名、歯科衛生士1名それぞれに15分以内でケースプレゼンテーションをして頂き、それを受けて審査委員の先生方による口頭試問が行われました。

審査委員の先生方による厳正なる資格審査の結果、第3期認定士資格審査応募者全員が合格されたことを報告させていただきます。

平成17年度秋季・第4期認定士資格審査（書類審査）を12月14日（水）に実施致しました。

書類審査に合格された方には、資格審査日程、資格審査を受けられる方それぞれには、個別の時間割と共に「日本歯科審美学会認定歯科技工士面接ガイド」「日本歯科審美学会認定歯科衛生士面接ガイド」を送付します。

資格審査・口頭試問は、平成18年2月2日（木）東京グリーンホテル水道橋にて実施致します。

（委員長 桑田正博）

認定医審議会

第16回日本歯科審美学会も、過去にない盛況ぶりで開催することができました。これもひとえに諏訪富彦大会長ならびに宮内修平準備委員長はじめ実行委員の皆様方の多大なご尽力の賜物と厚く感謝申し上げます。また、遠方、近隣からご参加いただきました会員諸兄のご協力に敬意を表します。しかし残念なことに大会期間中に、諏訪富彦先生が急逝されたことにはあまりにも大きな出来事となりました。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

さて、今学術大会から新たに「認定（認定医・認定士）講習会」（2日間に2回）を開催させていただきましたが、会員の皆様には多くのご参加を賜り厚く御礼申し上げます。講演中配布いたしました「認定講習会受講証」は、認定医申請時ならびに更新時に申請書類に添付していただきますようお願い申し上げます。学術大会に参加（4単位）され、認定講習会に出席（2単位）されますと6単位取得できます。今後も学術大会開催中に、「認定講習会」を開催させていただきますので、現在、認定医を取得されておられる会員ならびにこれから認定医を取得しようとお考えの会員はぜひともご出席いただきますようお願い申し上げます。

第17期認定医申請者は4名合格され、すべて手続きも完了されました。現在67名の「日本歯科審美学会認定医」がおられます。第18期認定医申請者は1名、更新者は3名で、過日開催いたしました認定医審議会におきまして書類審査はすべて合格されています。新規申請者には来る平成18年2月6日に口頭試問（プレゼンテーション）を受けていただく予定です。

これから、認定医新規申請ならびに更新をされる会員の皆さんは下記の点に留意してください。

- (1) 認定医申請書類の記載は、学会ホームページから申請書類・例示をダウンロードし、パソコン上にて直接作成してください（手書きでないこと）。
- (2) 学会など出席・参加記録は必ずそれを証明する書類（参加証・修了証・領収証など）を添付してください（学会プログラムなどは不可です）。
- (3) 現在、他学会で取得されている認定医・専門医を記載してください（口頭試問時には他の学会認定医（専門医）審査で使用した症例は不可です）。
- (4) プレゼンテーション時には術前、術後の記録を必ず提示してください。
- (5) 認定医申請時にプレゼンテーションされた症例は必ず、「歯科審美」に臨床論文として投稿してください。

今後、認定医を取得していただきやすくするために、下記の点について検討しています。

- (1) 学会参加・発表・症例等の必要単位数の引き下げ。
- (2) 歯科関連雑誌（歯界展望、ヒョウロン、ザ・クインテッセンス、QDT、デンタルダイヤモンドなど）に投稿された内容も十分加味させていただきます。
- (3) 「歯科審美」への投稿は、「臨床論文（認定医プレゼンテーション）」として記載しやすい

内容にするよう検討中（近日中に例示します）。

会員の皆様にはぜひとも「認定医」を取得されますようお願い申し上げます。

（委員長 末瀬一彦）

技工士部門

小さな空間が生み出す大きな力

私の師は、現在日本歯科審美学会名誉会員の寺川國秀先生である。そして師と寝食を共にしながら、20年の歳月が経った。その間、日々の臨床はもちろんのこと、日本国内への講演の鞆持ちや海外での講演のお供等、常に行動を共にさせていただいてきた。

私が勤務している新宿アルプス歯科は、お世辞にも大きくゴージャスな診療室とはいえない。20坪ばかりの診療室に多くのスタッフと患者が日々ごった返しているような空間である。診療室と技工室の間には明確な境界線はなく、常に歯科医師と歯科技工士がその空間をせわしなく動き回っている。そしてその中で、師と私は常に真正面から向き合いながら、地道に臨床をこなしてきたと思う。

海外の学会で師が講演をするようになってから、私も出来るだけ同行するようになってきた。はじめの頃は、なれない海外にアップアップの状態であったが、しかし何度か経験を重ねるうちに、あることに気がついた。「こんな小さな診療室で、しかも小人数で行った内容が、世界に通じるんだ」これは私にとってとても大きな発見であった。

日々の臨床、とりわけ歯科技工作業は、机の上で行われる地道でそして繊細な仕事であり患者のためのものである。そこには一見、何の華やかさも大きな舞台も無いように思われる。しかし、それだけではない違う大きな力もあるということに気がついたのであった。

現在、日本歯科審美学会には100名程の歯科技工士会員が在籍されている。日々の技工作業で大いに活躍されていると思うが、是非、その成果を学会で発表していただきたいと思う。2007年5月4日～6日には第5回のIFEDがソウルで行われることになっている。是非、世界の大舞台で活躍されることを期待したい。我々歯科技工士の仕事は小さな空間から大きな力を生み出すことができるのだから。

（歯科技工士部門常任理事 中込敏夫）

歯科衛生士部門

日本歯科審美学会会員としての歯科衛生士は52名であります（H17.4.11～11.30現在）。入会者17名、退会者0名という現状です。

本年度のご報告の第一番として、日本歯科審美学会・歯科衛生士の認定士が誕生したことです。H17.12月末現在に下記のとおり6名の認定者がおります。（武井典子、田島菜穂子、木村美佐子、森 和美、小粥照子、佐藤二三江）今後、多くの申請者・合格者が増えることを切に願っております。

社会の医療に対する概念が治療から予防へと大きく変化している昨今、食生活や心のケアの問題が大きくクローズアップされておりますが、特に、美しさへの追求の関心が日増しに「口元」

へ変わりつつあり、審美歯科への関心が高まってきています。

また、成功裡に終わった第16回日本歯科審美学会学術大会（大会長／故諏訪富彦先生）に歯科衛生士の参加が非常に多く、目を見張るものがありました。今後の歯科衛生士の活躍に多いに期待できるものと思っています。そして、故諏訪富彦先生の提唱された「傾聴」「共感」「共生と歯科審美」を胸に、日本歯科審美学会における歯科衛生士の位置づけをしっかりと確立し、医療人の一員として国民の健康、QOLの向上に寄与したいと考えます。

（歯科衛生士部門常任理事 佐藤二三江）



広報委員会

石橋会長の肝いりで広報委員会が発足し、Newsletterの発行を引き継いでから7回目の発刊となりこのNewsletterの体裁にも馴染んで来ていただいているのではないかと思います。当初10ページでスタートしましたが、委員の皆様のご尽力で少しずつ内容が充実し今回は21ページになりました。紙質を薄めにして郵送料は変わらないようにという工夫もいたしています。歯科審美学を学び、頑張って活躍していただいている会員の方々を紹介する一部として、10号からはデンツプライ賞・学会優秀発表賞の受賞者のご紹介をしていますが、今号から、新規に認定医・認定士に合格された先生方を皆様とともにお祝いし、より多くの会員の皆様に知っていただきたいと願って、“Congratulations！”のページを新設しました。しっかりと臨床に基盤をおいて運営されてきた本学会の認定医制度に、会員の皆様が一層興味をお持ちいただいて、ページに載せ切れないほどの認定医の先生方が生まれることを期待しております。また、世界に先駆けて制定された認定士は、審美学会の誇りです。

ホームページは一般向けのページからの転載希望の申し入れが徐々に出てきましたが、諸般の状況を考慮して現在のところお断りしています。今後さらにきちとした対応を検討いたします。

最後になりましたが、今号では本会理事で第16回学術大会大会長の諏訪富彦先生の訃報という、大変残念なお知らせの掲載となりました。寺川先生に追悼文をお願いし、学会時の諏訪先生のお姿を紙面の許す限り掲載いたしました。審美学会のためにご尽力いただいた先生をひととき偲んでいただく一助になればと思います。諏訪富彦先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

（委員長 黒田康子）



2006年 Winter Vol.12 (2006年1月発行) より

鶴見大学歯学部附属病院に『白くて美しい歯の外来』開設

鶴見大学歯学部第一歯科保存学教室 大森かをる (主任)
飯田麻理子・山田有美・鈴木千歳・西出明史・桃井保子

現在、歯科医療の役割は、う蝕や歯周病などの「治療」の枠を超え、健康を支援することから、歯および口元の美を追及しQOLの向上を目的とした範囲にまで拡大してきています。また、現代社会では、人とのコミュニケーションが欠くことのできない中「美しい口元で笑える」「自信を持って人前で話せる」ことが大変重要になってきています。今、インターネットで「歯のホワイトニング」と検索すると、60万件以上のサイトが紹介され、口元の美しさに対する人々の関心が非常に高いことを感じます。このような社会のニーズに応えるため、当附属病院では、2005年5月10日に、専門外来のひとつとして「白くて美しい歯の外来」を開設いたしました。ここでは、患者さんが自らの力で歯と歯周組織を健康で美しい状態に維持し、心身の健康を増進していけるよう支援しています。この外来は、患者さんがリラックスできるように、“治療の場”としての診療室とは一味違った雰囲気を持つ空間となっています。専門外来の待合室には、中央に白いソファが設置され、病院の硬さは感じられません。『白くて美しい歯の外来』のドアを開けると、かすかにBGMが聞こえ、間接照明が生かされた明るい部屋になっています。白を基調とした広々とした個室には一台きりのユニットがあり、その横にはPCのあるテーブルとカラフルな椅子が置かれ、ここで施術前のカウンセリングと施術後の説明を行っています。環境を整えることで、自然に患者さんの美意識や治療への意欲を高めることができると考えています。現在、当外来で提供している主な診療項目は、PMTC、オフィスホワイトニング、ホームホワイトニングおよび歯のマニキュアです。術前のカウンセリングには十分に時間をとり、オーダーメイドの施術方針を立案することで、患者さんが安心して来院できるよう心掛けています。

今後は、メタルフリーレストレーション、歯肉のメラニン色素除去、さらにセラピーメイクなども視野に入れた、幅広い「トータルな美」を展開していきたいと考えています。日本歯科審美学会会員の皆様、これからもご指導の程よろしくお願い申し上げます。

